

## <今朝の聖書から>

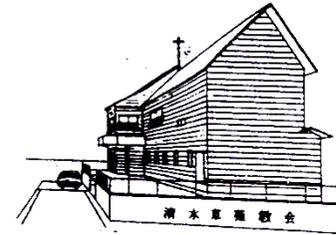
【墓前礼拝】墓前では、教会の礼拝で開かれた同じ個所が開かれました。思い出しましょう。葬儀という礼拝を教会として行い、共同墓地に、信仰者を葬り記念として、兄姉の証しを引き継ぎます。人にできることとして、ルカは、23:50 で、アリマタヤという町のヨセフと云う、身分が高いとされた人を紹介しています。この人は、“誰も葬られていない”墓を持っていました。ここに、イエスの亡き骸を引き取り葬りました。尊敬する人の死に際してできる最高のことをしました。けれども、24 章でみましたように、神は墓と死というものを拒否されました。私たちも、やがての日には、人を命と滅びに分け続けてきた、死からすくわれ“しかし、実際、キリストは死者の中から復活し、眠りについた人たちの初穂となりました（I コリント 15:20）”とパウロが告白しているように、教会のよりどころである復活の出来事を経験するのです。

【エマオ】エルサレムからエマオまでは、60スタディオン離れていると書かれています(24:13)。聖書の表によると、1スタディオンは185mとありますので、11km程になります。“ちょうどこの日”と書き始められていますから、復活の日の出来事です。19～24 節に、クレオパたちのイエス像が記されていることにも気が付きます。“ナザレのイエスのことです。この方は、神と民全体の前で、行いにも言葉にも力のある預言者でした”と、19 節にあるところが要点でしょう。どんなに復活の出来事を正確に伝えようとしても、彼らが変わえられるまで、彼らの理解は、このようにしか、文字や言葉にできないものでした。“捕らえられ、裁きを受けて、彼は命を取られた。誰が思い巡らしたであろうか。わたしの民の背きのゆえに、彼が神の手にかかり、命ある者の地から断たれたことを。彼は不法を働かず、その口に偽りもなかったのに、その墓は神に逆らう者と共にされ、富める者と共に葬られた”と、イザヤ書の 53:8～9 にあることも、ルカ 24:27 に“聖書全体から説明された”とある中に含まれていたことでしょう。11 kmをこのように、歩いて行ったのですから、この三人の足はゆっくりとしたものだったのでしょう。

【教会は】実は、このような話をされた時、二人の心は“わたしたちの心は燃えていたではないか(24:32)”とある通りだったのです。私たちは、人に伝えようとしています。初めての人にも、家族にもそうです。神の民に加えられなければ困るのです。燃える力がいったい何処にあるのでしょうか。本当に沢山の事実と直面しても、主にお出会い出来ない毎日だったら、悔い改めなければならないのです。毎主日、主に出合っているのではないのでしょうか。

# 週報

2011年 5月 1日



伝えよう 救い主を  
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

## 清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)

振替口座 00890-6-214042